The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	「My Life in Ethiopia」
Author(s)	橋場, 文香
Citation	目で見るWHO. 2012, 50, p. 34-35
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/86744
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

「My Life in Ethiopia」

長崎大学国際健康開発研究科 修士課程　橋　場　文　香

「広く青い空。道端を歩く牛、ヤギ、ロバそして鶏。茶色の土と緑が目につく景色。こんなに自然に囲まれた事が今まであっただろうか。」大都会大阪で育った私には、何もかも新鮮でたまらない。長崎大学院のプログラムで、修士2年生は途上国で8ヵ月インターンと研究の為に長期滞在することになっており、私は今エチオピアで生活しています。

エチオピアの風景

5ヵ月のインターンシップは、JICAアムハラ州感染症サーベーランスプロジェクト(Strengthening Infectious Disease Control and Response in Amhara National Regiona State/Amhara Regional Infectious Disease Surveillance project 以下「AmRids」)でお世話になりました。主な活動は、コミュニティーで活動している Kebele Surveillance Officers (村レベルで活動を行うヘルスボランティア、以下「KSO」)が地域住民に与えた影響についてインタビュー調査を行うことでした。地域住民は「KSO のおかげで、マラリアの原因や予防法が分かり、マラリア対策をできるようになった。」「5年前と比べて、村全体の衛生に対する知識が高まり、手洗いや洗濯をこまめにするようになった。」などの声を聞くことができました。また KSO からも「コミュニティーに貢献することができて嬉しい」「KSO になって、自分や家族、地域住民のために健康に関する知識を得ることができ、感謝している」という声を聞くことができました。このインタビュー調査を通して、コミュニティー全体が支えあって生きている姿に心を打たれました。

KSO に対するインタビューの様子

予防接種の機会に地域住民にインタビュー

今の日本は、コミュニティーのつながりが薄く、極端に言えば、隣で亡くなっている人に気づかないという現状です。「隣人は皆顔見知りで、お互いのことは何でも知っている」そんなコミュニティーがある昔の日本はどこにいってしまったのだろうか。と、どこか寂しい気持ちにもなりました。物が溢れ、電気や水は不自由なく使え、欲し

い物も割りと手に入る日本。それに比べて、ここエチオピアでは小さな幸せを感じることができます。もうすぐエチオピア滞在半年を迎える今は、研究活動を行なっており、研究地(Abiot Fana)から近い Mer'Awi 村で生活しています。Mer'Awi 村も田舎ですが、研究地はコンクリートの建物など一切ない田舎です。

田舎の家

研究地を訪れると、お昼前には必ずどこかの住民が「私の家においで」と声をかけてくれ、*インジェラをご馳走になります。田舎にかぎらず、エチオピア人にはおもてなしの心があり、「ブンナ(コーヒー)飲んでけ!」「インジェラ食べて行け!」とお誘いを受けることは日常茶飯事。

インジェラ

見知らぬ私に優しくしてくれ、どこか日本人の心と似ているエチオピア人の心にはとても親しみを感じます。また朝6時、日が昇る頃に鶏の「コケッコッコー」という声で目覚め、夜は21～22時には誰もが就寝しているエチオピア。誰もが忙しい日々を送る日本。日本で院生として忙しい日々を送っていた私にとって、改めて「睡眠」の重要性に気付かされました。当たり前ですが、日々の健康は「睡眠」「食事」をきちんとしているからこそ、保てるものだと再認識しました。衛生面では、戦後劣悪な公衆衛生状態から急速に成長を遂げた日本から学ぶ事が多いエチオピアでしょうが、「人々のつながり」「コミュニティーの大切さ」「日々の健康」などエチオピア人から見習わないといけないのは、日本人なのかもしれません。 ここでの生活では、水や電気があることの喜び、ご飯を食べられる喜び、人と会話できる喜び、側にいてくれる人がいる喜びなど、小さな喜びや幸せを多く感じることができ、幸せに満ちた生活を送ることができています。私は最近国際協力とは一体何なのだろうか。とよく自問自答しています。1つ大事だと言えることは、「人の幸せを感じること」。日本人である以上日本人の目線でしか見られないことも多くあると思いますが、現地の人の幸せを感じることは国際協力で必要な目線だと感じました。あと1ヵ月半、エチオピア生活にどっぷり浸かり、日本では感じられないことを感じ、成長して帰国したいと思います。

村の健康普及員と村の子供達

*インジェラ……エチオピアの主食。テフと呼ばれる穀物を粉末にし、水で溶き焼いたもの。